

みやぎ観光振興会議石巻圏域会議

【日時】令和7年9月29日（月）午後2時30分から午後4時30分まで

【場所】宮城県石巻合同庁舎 大会議室

【委員からの主な意見】

（石巻商工会議所 青木委員）

- インバウンドと国内旅行者（ビジネス、ファミリー、友人同士、高齢者など）など、ターゲットを明確にし、それぞれに合った対策を考えるべき。また、車や電車、飛行機など、旅行者の交通手段に合わせて、それぞれの利便性や特別感を感じさせるようなPR方法を考えるべき。
- 石巻市内の道路名、交差点の表示がほとんどなく、旅行者にとって非常に不親切である。案内板や道路表示を最優先で充実をさせるべき。
- ふるさと納税の返礼品として、宿泊とセットでタクシーやバス、鉄道などを乗り放題という特典を付けたコンテンツを作り、二次交通の問題解決を図ってはどうか。
- 宿泊促進のためのナイトコンテンツの充実を図るべき。特に、飲酒は宿泊につながりやすいため、「ナイトマップ」を作成し、飲食店等の情報を分かりやすく提供してはどうか。

（石巻料理店協会 阿部委員）

- お客様が携帯電話などで自分で調べる情報は不正確なことも多く、正しい情報が届いていないこともあるため、地域の観光地や飲食店等に関する情報の正確性を向上させるべき。
- 石巻市内では、観光客向けの案内看板が少ないので、外国人観光客増加にも対応した看板・表示が必要である。

（株式会社東松島観光物産公社 小山委員）

- 宿泊税は、宿泊客が恩恵を受けられるような活用がよい。宿泊客に限り、タクシーやバス、電車などの料金を割引・無料にするなど、「泊まってお得」と感じる施策を展開すべき。
- 宿泊税の活用は「あれもこれも」ではなく、「選択と集中」で効果的な分野に集中的に投入するのがよいのではないか。

（株式会社かほく・上品の郷 葛原委員）

- 石巻圏域は認知度が低く、特にインバウンド誘致のためには、SNSを活用した地道な魅力発信を積み重ねていくことが必要である。
- ターゲットを絞り込んだ戦略が非常に重要である。

（株式会社街づくりまんぼう 木村委員）

- 資料の「石巻圏域の具体的な取組イメージ」は、あまり具体的ではないという印象。
- 宿泊税は宿泊を増やすことに使うべき。宿泊が増えれば税収も増えるという好循環を目指すべきである。
- いくら使えるのかが分からないと、どのような企画を考えたらよいかわからない。宿泊税の収益額や目標宿泊者数等の数値目標を設定したうえで、事業主体や予算、実施期限・スケジュール

等を具体的に決めていく必要があるのではないか。

- 夜のイベントを実施しても石巻に宿泊しない人も多い。宿泊客を増やすためには、コンセプトルームなどのような宿泊しないと体験できない、あるいは購入できないという特典付きの企画が効果的だと思う。宮城県で推しているポケモンの活用はできないものか。
- いくつかの観光に関する会議に参加しているが、そのほとんどで「情報の一元化」「二次交通」が課題として出されているが進んでいないようだ。この機会に具体的に進めるべきである。

(一般社団法人女川町観光協会 高橋委員)

- 石巻圏域の悩みはどの地域にも共通。「どこでも同じ」からの脱却が必要ではないか。
- 宿泊税は「宿泊が増えるようなお金の使い方」に議論を集中すべきである。
- 資料を見ると、既存の課題議論に終始しているのではないか。女川駅では Suica が使えない等の課題解決に宿泊税を充てて欲しい。
- タクシー不足解消のため、Uber のように一般の人がタクシー事業を担える仕組みを導入すべきである。
- 女川秋の収穫祭で、宿泊客を増やすため、前泊した宿泊客に、秋刀魚の振る舞いのファストパスレーンを提供する取組みをしている。宿泊することで得られる具体的な「特権」を創出すべき。
- 無料で簡単に旅行プランを提案できるAIを更に地域に特化させ、ユーザーニーズに合わせた情報発信に予算を使うべきである。
- 宿泊税の使い道の基準を明確にすべき。

(東松島市商工会 橋本委員)

- 万博が前評判に対して人気だったが、理由は地元の飲食店が協力的であったこと。安価で何かを提供したり、ポスター掲示による広報協力など。観光客目線で安心して観光することができた。
- 仙台空港や仙台駅といった「玄関口」での観光情報の発信が不足しており、地元に来てもらうための工夫が必要である。
- 現状の議論内容は長年話し合われてきたことであり、あとは実行するのみの段階である。

(東日本旅客鉄道株式会社石巻駅 三笠委員)

- 宿泊税の使い道は宿泊事業者が潤うものであるべき。地域の事業者と連携して、宿泊すると市場で食事ができるなど、「宿泊したからこそできる体験」があると宿泊者目線で嬉しい。
- 二次交通について、JR駅としては、観光地までの行き方等の案内を求められており、タクシー会社等の地元の交通事業者等との連携を考えている。
- 情報発信ではイメージ画像（猫のアップ、海鮮丼のアップなど）が多い。単なるイメージ画像だけでなく、どこで食べられるか、営業時間、ルートなどがわかるように連携させ、情報を「繋がる」ようにするべき。

(一般社団法人宮城県タクシー協会 池田委員)

- 宮城の観光については、これまで同じメンバーで話し合い、結果として同じような内容になってしまふため、外部のプロに依頼して斬新なアイデアを出してもらつてはどうか。

- 宿泊税は地域の活性化のために有効に活用されなければいけない。例えば、石巻に宿泊した方には「寿司が半額で食べられる」や「タクシーを使って地域内を回れる」などの特典を与え、他地域との差別化を図ってはどうか。
- タクシー業者は運転者不足で廃業する会社もあり厳しい状況が続いている。観光では、自家用車やレンタカーで移動する方が多く、タクシー利用は少ない。一方で、外国人観光客はタクシー利用の可能性が高いため、インバウンド誘致が重要と考えている。

(一般社団法人石巻観光協会 後藤委員)

- 来年から宿泊税をどのように有効に使うかを民間としても考えていきたい。宿泊税の収支見込みは11億円と聞くが、このうち地域で使える金額を3分の2とし、地域独自に予算を使える仕組み作りを是非考えていただきたい。
- 宿泊者のための環境整備だけでなく、宿泊税を払っていただいた方に対するインセンティブが必要ではないか。例えば、抽選でタクシー券や地元の特産品をプレゼントし、それをSNS等で発信してもらう取組と連携するなど、納税者にメリットとして感じてもらう仕組みが必要である。
- 圏域全体の観光情報を集めるには、現状、大量の紙媒体のパンフレットになってしまい、毎年の更新を考えると、紙や労力が勿体ない。また、各団体のパンフレット作成予算を集めると相当大きな額になる。例えば、ポスターのQRコードを読み込むだけで、圏域全体の一元化された情報を入手できるようにするなど、デジタル化を進めれば、修正等も容易になる。
- 二次交通の確保も課題だが、その前に「石巻と言えばこれ」というコンテンツの徹底的な磨き上げが重要。地域のおすすめコンテンツがバラバラになっている現状。観光資源の絞り込みと作り込みに取り組んでいきたいと考えている。美味しいものを食べるなどの主目的があれば、観光客は遠く、交通手段が不便でも旅行に行くものである。
- 石巻地域に完全自動運転バスの導入を進めて欲しい。国の補助等を活用した実証実験等を県で誘致してほしい。
- AIは旅行のプラン作成で若年層を中心に広く使われている。高コストなインフルエンサー招聘などではなく、AIをどう活用して情報発信するかという点に力を入れるべきである。